

## がんのリハビリテーション（がんリハ）

---

早期診断や治療技術の進歩に伴い、がんの治療を終えた、あるいは治療を受けつつあるがん生存者の数は著しく増えています。“がんと共存”する時代となり、生き延びるだけでなくいかに“生活の質”を高めるかが問われています。

がんに伴う身体障害を対象としてリハビリテーション（リハ・リハビリ）を行うには、がんの病態や治療などについての知識が必要となります。がんそのものやがんに対する治療による障害の軽減、生活能力の改善を目的としたリハビリの担う役割が評価されつつあります。

## がんのリハビリテーションチーム（がんリハチーム）

---

実際の医療現場でリハビリに携わるセラピスト、がん患者さんの生活に寄り添う看護師、がん治療を統括する役割の医師らが、それぞれの立場から「この患者さんに少しでも快適に過ごしてもらうには何が必要か？そのためにはどのようなリハビリが役に立てるのか？」を考え提案し、チームとして検討・実施することで、より良い医療を提供できると考えています。

## 当院がんリハチームの紹介

---

外科部長 田中伸生

県指定がん診療連携拠点病院である当院では、平成22年8月の研修会参加後“がんリハビリテーションチーム”を発足させ、準備期間を経て23年より本格的な活動を開始しました。

まず、がんの手術前後に、早くスムーズに回復してもらうための周術期リハに取り組んでいます。具体的には、手術前から呼吸法の練習を行ったり、手術後に痛みが起きにくい動作の仕方をコーチしたりします。

それとともに、進行してしまったがん患者さんの運動機能や生活機能低下の予防や改善のためのリハビリ（緩和期リハ）のニーズも高く、対応が必要となっています。実際、とても退院できそうにないと思われた患者さんが、リハビリを行ってお家に帰ることが出来るようになった例も多くあります。

平成23年の一年間で113名・延べ1095件のがんリハを行いました。さらに、院内研修会の企画、緩和ケアチームへの参画、緩和ケア研修会への協力などの、多角的な活動も行っています。現在、スタッフも充実しつつあり、より一層質の高いがんリハを提供できる様に努力しています。

## チームメンバー

---

医師・看護師・理学療法士

## 関連リンク

---

慶応義塾大学病院 [がんのリハビリテーション](#)

<http://www.cancer-reha.com/index.html>